

第9回池田町・地方創生戦略町民会議 議事概要

- 開催日時 令和2年11月12日（木）14：00～17：00
- 場 所 能楽の里文化交流会館2階 大会議室（小会議室）
- 出席者 委員15名 行政11名 事務局5名

□ 開会

□ 委員長挨拶

□ 確認事項

- (1) 「なかま」分野について（続き）
教育委員会事務局長が資料に沿って説明

□ 協議事項（グループワーク）（大会議室・小会議室）

- 「なかま」分野における意見交換（続き）

□ 意見交換・総評

委員長：論点1の「『入学支度金支給事業』や『通学用定期券助成事業』等の補助は引き続き必要ですか？」をグループ1（以下、G1）、グループ2（以下、G2）、グループ3（以下、G3）の順でお願いする。

G1： 「入学支度金支給事業」「通学用定期券助成事業」について、極端な変更はやめたほうがいいのではないか。町がいつも言っている「不便だけれども安心して暮らせるまちづくり」で、不便を克服する一つの方法として、これらの制度があるのだろう。非常に補助率も高いし、支度金制度についても県内の中でも群を抜いた恵まれた制度だが、やはり制度を利用する方としては、この制度に込められた想い、感謝の気持ちというものを十分にくみ取って利用すれば、この制度は活きていくのではないか。

委員長：安心して暮らせるまちづくり。不便を克服するというはどういうことか。

事務局：不便さはあるけども、安心して暮らせるということ。

委員長：不便さを受け入れるということか。

G1： 不便さはあるが、安心して暮らせるまちというのは、一つの池田町のテーマである。安心を制度でどのように支えるかという点で、入学支度金や通学定期助成で不便を克服する一つの手段として町民の方々に支援をしている。

委員長：安心して暮らせるのが目的・テーマで、それを実現する手段の一つとしてこれらの制度がある。だからこれらは必要であるということですね。

G2： 「入学支度金支給事業」について、まず非常に有難い制度である。特に移住者の方は親族がないので、町からの支援は有難いだろう。また、越前市は低所得者が対象に対し、池田町は全員対象なので有難いのではないか。ただ、越前市も池田町も以前は一緒で支援開始時は有難かったが、今はもらうのが当然になっているのではないか。財源が厳しいなら見直して、大学進学時に全面的に支援する方向に切り替えて良いのではないか。

「通学用定期券助成事業」について、不便さを克服した池田町の一つの制度であると感じた。90%助成は非常に魅力だが、もしかすると利用しなくても無駄に定期購入をしてしまう人もいるのではないか。だから補助率を3分の2にすると利用方法を考えてもらえるのではないか。スクールバスは月500円で利用できるが、1日100円など段階的に上げていくのはどうか。

スクールバスは体力低下につながると思われ、徒歩通学や自転車通学で自然と体力がつくので、その距離を検討してはどうか。ただ、今はクマが出て危険なので、十分な検討が必要である。

G3： 「入学支度金支給事業」について、多いに越したことはないが、昔と比べたら現在は助成が非常に手厚くなっている。減らす、なくすではなく、年齢を上にして、池田離れを防ぐ意味でも助成の時期を変えても良いのではないか。一人親家庭もあるので、できるだけ支援を続けることも検討したらどうか。

「通学用定期券助成事業」について、部活等で時間が合わず全く使えない人と9割の助成で助かっている人と意見があった。現在、池田に高校がなくなつたので、引き続き、助成は必要である。

委員長：何のためという目的をはっきりさせるとあるがどんな議論だったか。

G3： 池田に住んで欲しいという目的をしっかりと助成をしていくべきということだ。子育て、子どもの送迎が非常に大変だったこともあって、子どもが中心の生活になると、福井に家があればとか、下宿先とか考へるので、「通学用定期券助成」は減らさず続けて欲しい。

委員長： G2で定期が無駄とあったが、無駄に定期購入されているのか。

G2： 現状を知らないが、例えば、福井市の高校の部活等でバスに間に合わず、親の送迎となり、買った定期を使わず無駄になってしまうことも考えられる。

委員長：補助を受けるには買った証明書をつけるのか。使わないと自己負担分の1割は損するが、それでもたまに使うから買うのか。

町土整備課長：例えば朝に定期を使うが、帰りは部活で間に合わないから迎えがあるということもある。

委員長：50%しか使わないけども、90%補助をもらえるから利用する人もいるということですね。

「入学支度金支給事業」も「通学用定期券助成事業」も、補助の仕方をもう一工夫してはどうかということもあるが、支援が必要で継続という意見が大勢を占めている。ただ、この補助事業は何のためにしているのかという目的を町民のみなさんにもしっかりと共有を働きかけることが大事である。安心して暮らせるまちづくりを目指し、その不便さを克服し、池田に住んで欲しいという想いがあるということですね。

委員長：不便なことを克服するとか、親の送迎負担を少しでも減らすことなど当面の課題を解決するために補助事業があって、もう少し長い目で見たあって欲しい姿という目的があるはずで、安心して暮らせるとか池田に住んで欲しいとか、長い目で見たあって欲しい姿をはっきりと打ち出した方が良いのではないか。あまりないかと思うが、補助金が出るから来るとなるとありたい姿と異なるのではないか。入学支度金支給の想いは何か。お祝いか負担軽減か。

教育委員長事務局長：どちらかというと子育て世帯の経済的支援の意味合いが強い。

委員長：長い目で見た事業の目的と当面の課題解決をはっきりさせると良い。
論点2の「池田町教育大綱では、子どもたちの『育つ力を育てる』ために、

『学校・家庭・地域が連携・協力し、子供の主体的な学びを実現する』ことを基本目標に掲げています。地域と学校の連携・協力について、あなたならどのような連携・協力ができますか?」について発表をお願いする。

G1 : 「育つ力を育てる」の「育つ力」とは、野菜を育てる時に種を蒔くと芽を出して成長するが、その成長には太陽や水や肥料の、時にはその成長を阻害するような風や雨など、様々な影響を受けながらも成長するような力のことだ。

地域と学校の連携・協力について、地域の方々は様々な長い人生経験の中から多くの引き出しを持っていて、そこから貴重なものを子どもたちや地域に活かしていくための場の設定、そのプロデュースが必要だ。子どもたちが興味や関心を持つもの、池田に愛着を持つものは、例えば、ジビエ、魚釣り、山菜取り、川遊び、米作り、農業体験、農業や年配者の話などあり、様々な形で地域を学べる。それが結果的に子どもたちに人間そのものの信頼感や人間肯定的な力を育み、子どもたちの大きな成長になるのではないか。また、経験を持って活動される方の生きがいにもつながっていくだろう。実際に、農業公社、食Uターン、職場体験、町体験、老人会の農業体験、池田追分など経験を活かしているのは場の設定がされたからであろう。自習寺子屋の提案もあった。それぞれの方が持っている今までの経験を引き出せる場のプロデュースが今後大事で、地域や学校が連携してやっていけるのではないか。おうちの手伝い推進運動も非常に大事ではないか。子どもの成長にも役立つし、家族の絆もつながるし、大きくなってから池田の愛着も折々に出るのでないか。

委員長：一人一人の引き出しを活かす場づくりが一つの核になり、その場の一つの取組みの提案として自習寺子屋や学校で家の手伝い推進運動などあり、今まで池田町でやってきた場を活かした取り組みも重要であるだろう。

G2 : 「育つ力を育てる」には学校・家庭・地域の連携が大事だ。学校関連は把握できていないので、家庭や地域を考えた。家庭では、笑顔でいる、ありがとう感謝する、自分が悪いと思えば謝ることが大事だ。地域では、郷土愛を育てることが非常に重要になる。郷土愛を育てるには子どもたちの居場所を作るのが大事で、居場所を作るには、お祭りとかどんと焼きなど昔から大事にして長い間培われてきた行事があり、行事を教えることで、子どもたちの郷土愛を育てていけるのではないか。大人の心構えは、挨拶を自分から日々することが大事で、どんと焼きとかお祭りとかで「どうもならん」と言わず、ため息もつかないといった大人たちの姿勢が大事だ。大人も楽しまないと説得力がない。小さくてもいいから各地域の祭りなどで子どもたちに役割を与えることをす

ると子どもたちの育つ力が徐々についていくのではないか。

委員長：学校、家庭、地域と分けて、私たちができるることは家庭と地域となり、地域の目標は郷土愛を育てることだったが、家庭の目標は躰を身に着けることか。それを基に、笑顔でいることやポイ捨てをやめることがあり、子どもに教えることもあれば、大人が心がけることもあるということですね。

G3：郷土愛や子どもを交えた活動が少ない。昔は参加するのが当たり前だった行事も今では嫌なら参加しなくても良い。今の時代の流れで仕方ないが、親の考え方も変化している。地域社会的活動をすると子どもたちが出やすくなり、池田に対する思い出づくりが必要だ。昔はソフトボールなど父親の横のつながりがあったが、今は薄れているのではないか。町民体育祭やお祭りの復活など良い思い出を子どもたちに多く作ることも必要で、子どもたちに役割を持たせることも必要だ。また、発表する場をしっかり作る必要があり、文化祭やイベント等行えると良い。我々も協力できることは協力し、関わり合いはできるが、お膳立てする人がいないため、段取りする人を育てる必要だ。書道、俳句、池田追分など特別な技術を持っている方に例えれば学校から声がかかればぜひ協力して頂きたい。

委員長：ここでも郷土愛という言葉が出たが、池田の良さや住んでいて良かったということを含めた郷土愛ですね。

自習寺子屋をもう少し説明して欲しい。

事務局：自習寺子屋の背景として、中学生の自死があり、二度と池田で起こって欲しくなく、家庭や学校以外の第3の場があると良いと考えた。そこで、学校の宿題や読書やボーと座って考えていても良いが、自分でこれをやろうと思うことをできる場として考えている。それが発展していくば、山遊びの回や川遊びの回や田んぼ遊びの回など皆さんと協力していくのではないか。なかなか出来ていないが、自習寺子屋はその第3の場という構想である。

委員長：自習寺子屋のところに町民の一人一人の引き出しを集めて役割を発揮してもらうということですね。

最初に問いかけるべきだったが、「育つ力を育てる」とはどういう意味か。

教育長：2年前に教育大綱を改訂し、その理念として「育つ力を育てる」とした。「育つ力」とは、自分で自分を向上させる積極的な学びに向かう意欲を高めていこ

うとすること、誰かに頼るのでなく自分自身が積極的な気持ちを持って自分を伸ばしていく姿勢をもつことで、これからは積極的な姿勢を持った人材が必要という想いで、「育つ力を育てる」としている。

委員長：自らが成長することを自らが積極的にという「自育」ということで、それを共育で応援したり、学校の公的な教育の場でも進めたりする必要がある。教育大綱の教育理念で「育つ力を育てる」ことを打ち出しているので、その言葉の意味を町民一人一人が心入るようにするのが大事ではないか。

企画幹：教育大綱に書いてあるように「育つ力を育てる」ためには大人もまず成長し、それをきちんと子どもにも見せてあげることが大事ではないか。

郷土愛につなげるために子どもの居場所を作る一例として祭りを機会にすると話したが、そもそも大人が祭りの意味を理解しているのか。始まった理由、続いている理由、行っている理由を大人ももう一度理解すべきだ。そもそもの目的や意味がある上で、現代社会と照らし合わせ、昔は子どもが担っていた役割が農業の機械化などでできなくなり、子どもの役割がないから子どもがなかなかお祭りを楽しめないこともあるのではないか。よって、今の大人が時代に合わせて、子どもの役割を改めて作るのが大事なのではないか。

子どもを育てるためには大人がまず行動することが大事で、地域の行事などの意味を考えて、時代時代に合わせてしっかり見直しをして、結果的に後世に残していくことが大事である。説得力を持たせるためには、まず大人が子どもに範を示さなければならない。どうもならんとか、ネガティブなことを言ったり、ため息ついたり、ポイ捨てしたりせずに、自分から挨拶して、笑顔でいることが大人として大切だ。

委員長：意味をしっかりと理解することや歴史的な経緯も含めて伝えられるようにすることは大事なことで、親や先生の背中をみて子どもは育つと言うし、大人が楽しそうにしていないと子どもには伝わらないので、大人が範を示し、日頃の態度で伝えることも大事だ。

教育長：小さな社会ならではの豊かな生活環境を再構築していく大きな目標に向かっての皆さんの議論に感謝する。論点2の地域や皆様が学校にどう連携・協力できるかだが、当然地域の皆さんのが持っている知識や技能や経験や価値観など協力頂くと子どもたちの成長に大きく役に立つと考えている。ただ、それ以外にも、自分の子がいなくても、運動会や文化祭に行って、応援したり、頑張っている姿を見守ったりすることも学校にとって非常にありがたい。

また、危ないことをしている、入ってはいけない所に入る、危険な所で遊んでいるなど学校に連絡が入る。命に係わること、いじめにつながること、防犯のことなど連絡頂くのは当然有難いが、それ以外に、中学生の子がおばあちゃんの荷物を持ってあげたといった良いことも学校に連絡頂くと、子どもたちも地域の人がしっかりと見てくれていると励みになるので、協力して頂けると有難い。

委員長：皆で見守ることも大事だ。論点3を話す時間がなかったが、これは次の自治に関係するのでそこで大いに議論して頂きたい。

□ 次回の日程について

次回以降は第10回目を12月10日（木）、第11回目を1月7日（木）、第12回目を1月28日（木）に予定している。

□ 副委員長挨拶

□ 閉会